

2025年3月期第3四半期 決算説明資料

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

証券コード：8242

2025年2月5日



ポイント

業績

- 連結業績は、好調な百貨店事業が牽引し、総額売上高・営業利益・経常利益・当期純利益がいずれも過去最高を更新
- 百貨店事業は、堅調な国内売上・大幅に伸長したインバウンド売上により、増収増益基調が継続
- 食品事業は、食品スーパーの既存店売上高前年超えにより、増収増益

予想

- 連結総額売上高とセグメントを修正
- 営業利益以下は据え置き（4Qに固定資産減損等の特別損失を計上予定）

2024年度 1-3Q業績

		対前年
総額売上高	8,740億円	+723億円 +9.0%
営業利益	289億円	+67億円 +30.4%
当期純利益	374億円	+197億円 +110.7%

2024年度 通期見通し

		対前年	対前回予想 (11月公表)
総額売上高	11,570億円	+831億円 +7.7%	+20億円 +0.2%
営業利益	310億円	+48億円 +18.4%	—
当期純利益	300億円	+81億円 +37.0%	—

先ず、今回の第3四半期のダイジェストです。

連結業績は、好調が続く百貨店事業が牽引し、総額売上高・各段階利益がいずれも過去最高を更新しました。

百貨店事業は、国内売上が堅調を継続、インバウンド売上は年末にかけての回復もあり大幅に伸長し、増収増益基調が継続しています。

食品事業は、食品スーパーの既存店売上高が前年を上回り、増収増益となりました。

2024年度の通期予想は、連結総額売上高とセグメント数値を修正し、営業利益以下に関しては据え置きとしております。

次のスライドからそれぞれについて、詳しくご説明いたします。

Topics

1	2024年度 1-3Q業績	P.	5
2	2024年度 通期見通し	P.	14
3	Appendix	P.	17

本資料の記載について

- 本資料において、億円表示の場合は億円未満を四捨五入した数値を記載
- 本資料における「総売上高」は収益認識に関する会計基準適用前の数値を記載
- 2025年3月期からのグループ本社費計上区分見直しに伴い、営業外費用に計上していたグループ本社費を販売費及び一般管理費に組み換え、各セグメント営業利益及び各子会社営業利益に反映、連結全体の営業利益は影響なし
- 「親会社株主に帰属する当期（四半期・中間）純利益」は「当期純利益」と記載
- 「1Q」は第1四半期の数値、「1-2Q」、「1-3Q」、「3-4Q」、「1-4Q」はそれぞれの期間の累計値で記載

ここからは
2024年度 第3四半期業績、
2024年度 通期見通し
の順にご説明いたします。

Topics

1 2024年度 1-3Q業績 P. 5

2 2024年度 通期見通し P. 14

3 Appendix P. 17

連結業績

- 百貨店事業が業績を牽引、総額売上高・営業利益・経常利益・当期純利益のいずれも過去最高を更新
- 営業利益は全てのセグメントで増加、通期予想達成に向け順調に進捗

単位：億円

	1-3Q (4-12月)				3Q (10-12月)			
	23年度	24年度	前年増減率	前年増減	23年度	24年度	前年増減率	前年増減
総額売上高	8,016	8,740	+9.0%	+723	2,965	3,155	+6.4%	+191
売上高	4,955	5,149	+3.9%	+194	1,769	1,836	+3.8%	+67
営業利益	222	289	+30.4%	+67	123	139	+13.2%	+16
経常利益	239	300	+25.4%	+61	133	140	+6.0%	+8
当期純利益	178	374	+110.7%	+197	115	104	▲9.6%	▲11

1Q計上の投資有価証券売却益、段階取得に係る差益含む

連結業績についてご説明いたします。

先ほどもダイジェストで触れましたが、好調な売上が続く百貨店事業が連結業績全体を牽引しており、総額売上高、各段階利益が過去最高となりました。

純利益が前年から大幅に増加しておりますが、こちらは第1四半期に計上した投資有価証券売却益、段階取得に係る差益も含んでおります。

また、全てのセグメントで増益となり、通期予想の達成に向け順調な進捗となっております。

セグメント別業績-総額売上高・営業利益

単位：億円

連結 総額売上高	
2024年度 1-3Q	8,740 億円
前年増減率	+9.0%
前年増減	+723 億円

	1-3Q		
	23年度	24年度	前年増減率
百貨店	4,247	4,816	+13.4%
食品	3,236	3,242	+0.2%
商業施設	244	247	+1.2%
その他	290	435	+50.1%

	3Q		
	23年度	24年度	前年増減率
	1,655	1,766	+6.7%
	1,127	1,130	+0.3%
	86	87	+1.2%
	96	172	+78.5%

連結 営業利益	
2024年度 1-3Q	289 億円
前年増減率	+30.4%
前年増減	+67 億円

	23年度	24年度	前年増減
百貨店	153	233	+80
食品	66	69	+3
商業施設	26	34	+8
その他	14	36	+22
連結調整	▲37	▲82	▲45

	23年度	24年度	前年増減
	90	107	+17
	29	32	+3
	10	12	+2
	1	▲12	▲13
	▲7	▲0	+7

セグメント別業績については、ご覧のスライドの通りです。

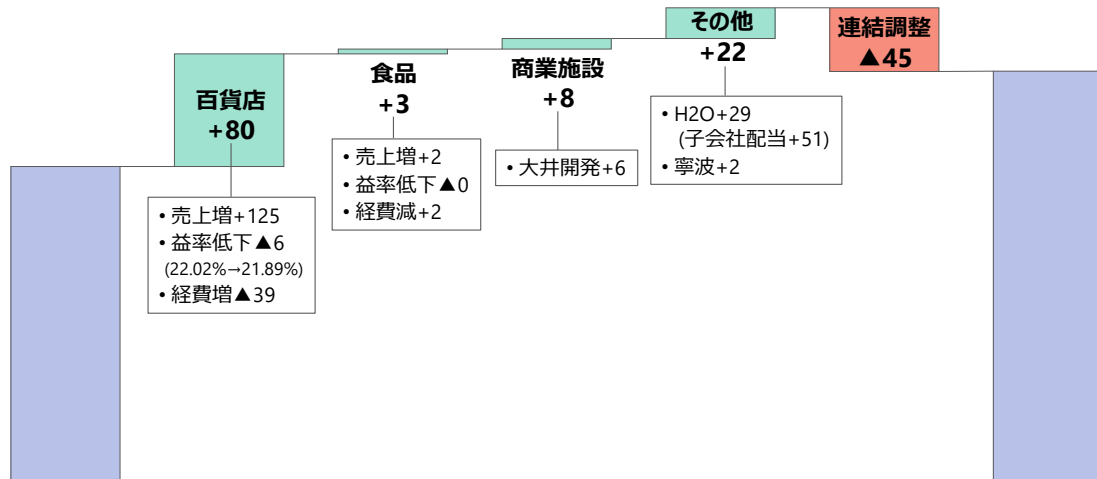
セグメント別業績-営業利益増減（対前年）

単位：億円

23年度
1-3Q
222

対前年 +67

24年度
1-3Q
289



第3四半期累計のセグメント別営業利益の前年増減をグラフで示したものがこちらです。

百貨店事業はインバウンド売上を中心とした売上増が大きく寄与し、食品事業は売上増・経費減、商業施設事業はホテルの好調が継続しており、連結全体で前年から67億円の増益となりました。

セグメント別業績-百貨店事業 (1/3)

- 国内売上は堅調（対前年+3%）、インバウンド売上伸長（対前年+90%）基調は変わらず、大幅に増収増益
- 販売管理費は売上連動経費が増加も、計画内で進捗

単位：億円

	1-3Q			3Q		
	23年度	24年度	対前年	23年度	24年度	対前年
総額売上高	4,247	4,816	+13.4%	1,655	1,766	+6.7%
売上高	1,328	1,463	+10.2%	514	542	+5.4%
売上総利益	935	1,054	+119	365	390	+25
販売管理費	782	822	+39	275	283	+8
営業利益	153	233	+80	90	107	+17

	24年度 1-3Q実績	前年増減率
都心店	4,222	+16%
阪急本店	2,779	+21%
博多阪急	523	+16%
郊外店	742	+0%
全店	4,965	+13%

単位：億円

販売管理費増減内訳	
売上連動経費*	+26
賞与等	+18
水光熱費	▲3

*販売手数料、地代家賃

百貨店事業についてご説明いたします。

売上を国内、インバウンドに分解しますと、国内売上は前年からおよそ3%増と堅調に推移し、インバウンド売上は前年から90%増と大幅に伸長しました。

店舗別ではインバウンド売上を牽引している阪急本店・博多阪急を中心とした都心店が引き続き前年から伸びています。

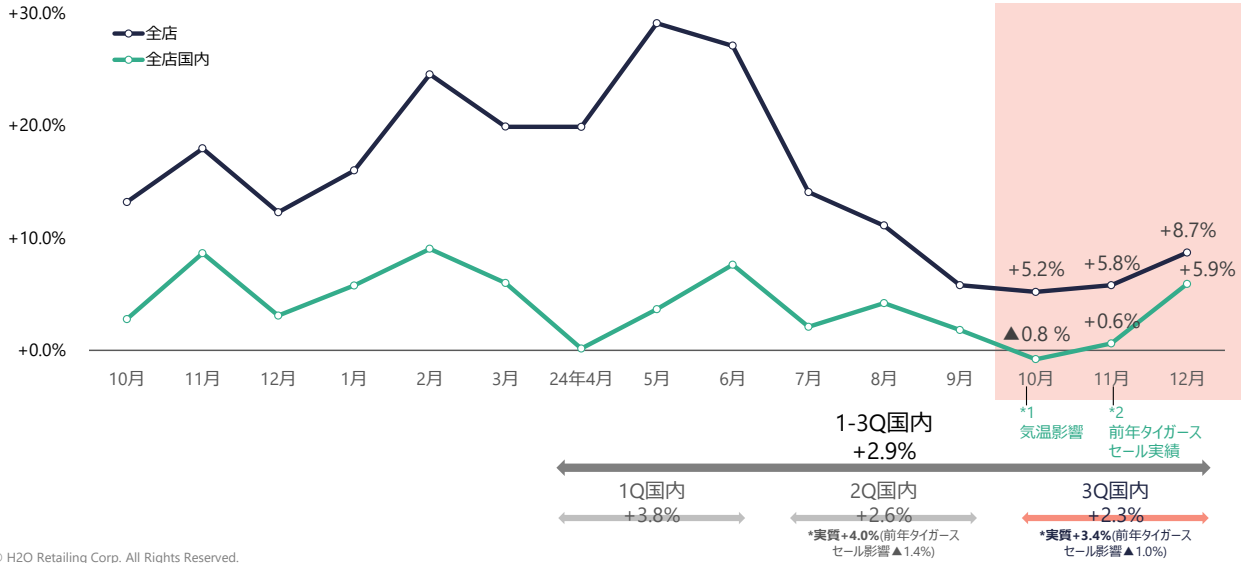
販売管理費は売上連動経費を中心に前年から増えたものの、計画内で進捗しております。

結果として、営業利益は第3四半期累計で前年から80億円の増加となりました。

セグメント別業績-百貨店事業 (2/3)

- 国内売上は、気温影響*₁や前年の阪神タイガースセール影響*₂があったものの堅調に推移 (*3Q実質対前年+3.4%)
- 4Qは改装影響・営業日数減により、国内売上の伸び率は鈍化の見通し

全店売上推移 (前年増減率)



百貨店の全店売上と国内売上の対前年の推移についてご説明いたします。

グラフは、全店売上と国内売上に分けて記載しており、紺色が全店売上、緑色が国内売上です。

緑色の国内売上は、気温影響や前年の阪神タイガース優勝セールの影響があったものの、10月から12月は3%超で推移しました。

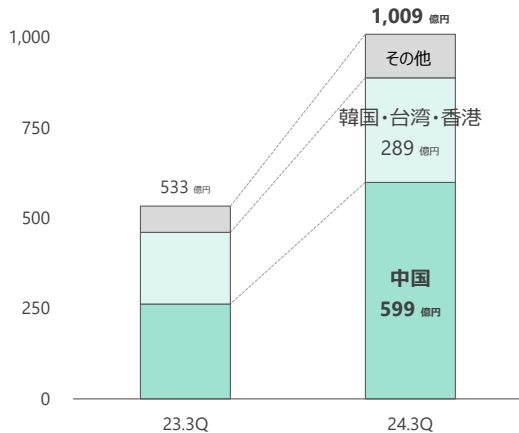
国内売上は今年度に入り前年ハードルが高まる中でも、前年を上回るペースで推移していますが、第4四半期は営業日数の減少や阪神梅田本店・川西阪急の改装もあり、伸び率は若干鈍化する見通しであります。

セグメント別業績-百貨店事業 (3/3)

- インバウンド売上は、円高影響のあった2Qから年末に向けて月を追うごとに回復、3Q累計で前年通期実績を上回る
- 1月も店休日増にも関わらず日商3.8億円と好調に推移、インバウンド売上は通期で1,300億円を見込む

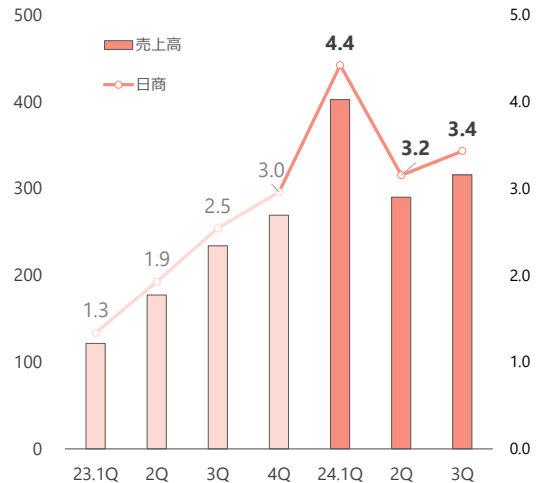
地域別インバウンド売上 (1-3Q)

単位：億円



インバウンド売上推移 (Q別推移)

単位：億円



こちらのスライドでは、インバウンド売上を詳細にご説明いたします。

左のグラフは前年度と今年度の第3四半期累計のインバウンド売上を地域別に示しております。

インバウンド売上は第3四半期累計で約1,000億円と前年の通期実績800億円を上回り、引き続き好調を持続しています。

中国のシェアは6割、韓国・台湾・香港が3割という構成は変わらず、客数増により伸長しています。

右側のグラフは四半期毎のインバウンド売上と日商の推移を示しております。

第1四半期は円安や中国人売上の拡大もあり日商ベースで4億円を上回るなど急伸びしましたが、第2四半期以降は安定的に3億円を上回っており、足元の1月も3.8億円と好調に推移しています。

インバウンド通期売上見通しは、これまでの進捗を鑑み、前回予想の1,260億円から1,300億円に修正いたしました。

セグメント別業績-食品事業

- 食品スーパーは、1点単価は緩やかに上昇、買上点数は下げ止まり。客数は堅調に推移しており、既存店売上高は前年を上回る。立地別では住宅街立地店舗が苦戦した一方で駅前立地店舗は堅調。
- 食品製造・宅配は、不採算子会社の事業終了により減収となるも、食品製造好調により増益、セグメント全体で増収増益

単位：億円

	1-3Q			3Q			
	23年度	24年度	前年増減率	23年度	24年度	前年増減率	
総額売上高							
2024年度 1-3Q	3,242億円						
前年増減率	+0.2%						
前年増減	+6億円						
	イズミヤ・阪急オアシス	2,028	2,024	▲0.2%	707	706	▲0.2%
	関西スーパーマーケット	1,009	1,015	+0.6%	348	352	+1.2%
	食品製造・宅配	311	302	▲3.1%	111	110	▲1.0%
営業利益							
2024年度 1-3Q	69億円						
前年増減率	+4.9%						
前年増減	+3億円						
	イズミヤ・阪急オアシス	45	47	+3	19	22	+3
	関西スーパーマーケット	29	28	▲2	11	11	+0
	食品製造・宅配	▲6	▲4	+1	0	0	+0

続いて、食品事業についてご説明いたします。

イズミヤ・阪急オアシス、関西スーパーマーケットは、1点単価が緩やかに上昇を続ける中、買上点数の減少は下げ止まり、客数は前年を上回って推移したことで、既存店売上高は前年を上回りました。店舗の立地別では、住宅街立地店舗は苦戦したものの、駅前立地の店舗は堅調に推移しました。

食品製造・宅配は不採算子会社の事業終了に伴って減収となったものの、惣菜を中心とした食品製造が好調で増益となり、食品事業全体では増収増益となりました。

セグメント別業績-商業施設事業

- ビジネスホテル（アワーズイン阪急）を運営する大井開発が牽引し、セグメント全体で増収増益
アワーズイン阪急は前年3Q以降95%超の稼働率で推移、客室単価は上昇基調（対前年+20%程度）が継続

単位：億円

総額売上高		1-3Q			3Q		
		23年度	24年度	前年増減率	23年度	24年度	前年増減率
2024年度 1-3Q	247億円	47	55	+17.6%	17	20	+17.7%
前年増減率	+1.2%	191	182	▲5.0%	67	64	▲4.3%
前年増減	+3億円	34	37	+6.9%	12	12	+5.0%

営業利益		23年度			24年度		
		23年度	24年度	前年増減	23年度	24年度	前年増減
2024年度 1-3Q	34億円	19	26	+6	7	10	+2
前年増減率	+29.0%	6	4	▲2	3	2	▲1
前年増減	+8億円	3	5	+2	1	2	+0

次に商業施設事業についてご説明いたします。

商業施設事業は増収増益となりました。

東京でビジネスホテルを運営する大井開発が、前年の第3四半期以降客室稼働率が95%を超える水準で推移する中、客室単価も20%程度上昇しており、売上高・営業利益ともに増加しました。

Topics

1 2024年度 1-3Q業績 P. 5

2 2024年度 通期見通し P. 14

3 Appendix P. 17

続いて、2024年度の通期見通しについてご説明いたします。

2024年度 通期見通し-連結業績

- 連結総額売上高とセグメントを修正
百貨店は改装影響により4Q期間で減益を想定（阪神梅田本店、川西阪急の改装工事影響等）
- 営業利益以下は据え置き（4Qに固定資産減損等の特別損失を計上予定）
- 年間配当は期初予想通り、前年から12円増の40円を計画

単位：億円

	23年度 1-4Q実績	24年度 1-4Q予想 11/6公表	24年度 1-4Q予想 2/5公表	増減		23年度 4Q実績	24年度 4Q予想	増減
	(a)	(b)	(c)	(c vs a)	(c-b)	(d)	(e)	(e vs d)
総額売上高	10,739	11,550	11,570	+7.7%	+20	2,722	2,830	+4.0%
売上高	6,574	6,820	6,820	+3.7%	—	1,619	1,671	+3.2%
営業利益	262	310	310	+48	—	40	21	▲19
経常利益	279	320	320	+41	—	40	20	▲19
当期純利益	219	300	300	+81	—	41	▲74	▲116

2024年度の通期見通しは、連結総額売上高とセグメント内訳を一部修正、営業利益以下は据え置きとしています。

阪神梅田本店、川西阪急の改装により、百貨店事業は第4四半期で減益を見込んでおります。

また、第4四半期に固定資産の減損に伴う特別損失を計上する見込みです。

年間配当は、期初計画通り、前年から12円増の1株当たり40円を予定しています。

2024年度 通期見通し-セグメント別

単位：億円

連結 総額売上高		23年度 1-4Q実績 (a)	24年度 1-4Q予想 11/6公表 (b)	24年度 1-4Q予想 2/5公表 (c)	増減		23年度 4Q実績 (d)	24年度 4Q予想 (e)	増減 (e/d)	
					(c/a)	(c-b)				
2024年度 通期予想	11,570億円	5,771	6,285	6,315	+9.4%	+30	1,525	1,499	▲1.7%	
前年増減率	+7.7%	百貨店	4,256	4,300	4,290	+0.8%	▲10	1,020	1,048	+2.7%
前年増減	+831億円	食品	321	327	327	+2.0%	—	77	80	+4.6%
		商業施設	390	638	638	+63.3%	—	101	203	+101.2%
		その他								

連結 営業利益		23年度 1-4Q実績 (a)	24年度 1-4Q予想 11/6公表 (b)	24年度 1-4Q予想 2/5公表 (c)	増減		23年度 4Q実績 (d)	24年度 4Q予想 (e)	増減 (e-d)	
					(c-a)	(c-b)				
2024年度 通期予想	310億円	196	261	270	+74	+9	44	37	▲6	
前年増減率	+18.4%	百貨店	71	94	88	+17	▲6	5	19	+14
前年増減	+48億円	食品	32	38	38	+6	—	6	5	▲2
		商業施設	▲0	2	2	+2	—	▲14	▲34	▲20
		その他	▲37	▲85	▲88	▲50	▲3	▲0	▲6	▲5
		連結調整								

セグメント別の業績見通しはこちらのスライドの通りです。

今回の修正にて、百貨店事業の総額売上高、営業利益を上方修正、食品スーパーの総額売上高、営業利益を下方修正しています。

業績及び通期見通しについては以上です。
ありがとうございました。

Topics

- 1 2024年度 1-3Q業績 P. 5
- 2 2024年度 通期見通し P. 14
- 3** Appendix P. 17

連結業績推移

単位：億円

	23年度				24年度					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	対前年	2Q	対前年	3Q	対前年
総額売上高	2,447	2,605	2,965	2,722	2,764	+13.0%	2,821	+8.3%	3,155	+6.4%
売上高	1,548	1,637	1,769	1,619	1,619	+4.6%	1,694	+3.4%	1,836	+3.8%
営業利益	48	51	123	40	93	+45	57	+6	139	+16
経常利益	52	55	133	40	102	+50	57	+3	140	+8
当期純利益	34	29	115	41	265	+231	6	▲23	104	▲11

セグメント別業績推移

単位：億円

	23年度				24年度					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	対前年	2Q	対前年	3Q	対前年
百貨店	1,235	1,356	1,655	1,525	1,554	+25.8%	1,496	+10.3%	1,766	+6.7%
食品	1,031	1,078	1,127	1,020	1,034	+0.3%	1,078	▲0.0%	1,130	+0.3%
商業施設	81	77	86	77	82	+1.8%	78	+0.5%	87	+1.2%
その他	100	93	96	101	94	▲6.3%	169	+81.2%	172	+78.5%
総額売上高	2,447	2,605	2,965	2,722	2,764	+13.0%	2,821	+8.3%	3,155	+6.4%
百貨店	29	34	90	44	80	+50	47	+13	107	+17
食品	16	21	29	5	15	▲1	21	+1	32	+3
商業施設	9	7	10	6	13	+4	8	+1	12	+2
その他	22	▲8	1	▲14	66	+44	▲18	▲10	▲12	▲13
調整額	▲29	▲1	▲7	▲0	▲82	▲53	▲0	+1	▲0	+7
営業利益	48	51	123	40	93	+45	57	+6	139	+16

百貨店事業-業績推移

単位：億円

	23年度 1Q			24年度 1Q			23年度 2Q			24年度 2Q			23年度 3Q			24年度 3Q		
			対前年			対前年			対前年			対前年			対前年			対前年
総額売上高	1,235	1,554	+25.8%	1,356	1,496	+10.3%	1,655	1,766	+6.7%									
売上高	383	457	+19.6%	431	463	+7.4%	514	542	+5.4%									
売上総利益	274	338	+64	297	327	+30	365	390	+25									
販売管理費	244	259	+14	263	280	+17	275	283	+8									
営業利益	29	80	+50	34	47	+13	90	107	+17									

個別業績推移-株式会社阪急阪神百貨店（収益認識基準適用前）

単位：百万円

	23年度			24年度			23年度			24年度			23年度			24年度		
	1Q	1Q	対前年	2Q	2Q	対前年	3Q	3Q	対前年	1-3Q	1-3Q	対前年	1-3Q	1-3Q	対前年			
総額売上高	122,734	154,535	+25.9%	134,745	148,700	+10.4%	164,620	175,652	+6.7%	422,100	478,888	+13.5%						
売上総利益	27,599	34,116	+6,517	29,805	32,854	+3,049	36,888	39,462	+2,573	94,293	106,433	+12,140						
(売上総利益率) 売上総利益 / 総額売上高	22.49%	22.08%	▲0.41pt	22.12%	22.09%	▲0.03pt	22.41%	22.47%	+0.06pt	22.34%	22.23%	▲0.11pt						
その他の営業収入	967	1,035	+68	1,000	1,054	+53	1,063	1,131	+67	3,032	3,221	+189						
販売管理費	25,634	27,174	+1,540	27,473	29,311	+1,838	28,995	29,917	+921	82,103	86,403	+4,299						
(販売管理费率) 販売管理費 / 総額売上高	20.89%	17.58%	▲3.30pt	20.39%	19.71%	▲0.68pt	17.61%	17.03%	▲0.58pt	19.45%	18.04%	▲1.41pt						
営業利益	2,932	7,977	+5,045	3,332	4,597	+1,264	8,956	10,676	+1,719	15,222	23,252	+8,030						
(営業利益率) 営業利益 / 総額売上高	2.39%	5.16%	+2.77pt	2.47%	3.09%	+0.62pt	5.44%	6.08%	+0.64pt	3.61%	4.86%	+1.25pt						

営業外損益・特別損益

単位：億円

	23年度 1-3Q	24年度 1-3Q	前年増減	主な内容
営業利益	222	289	+67	
営業外損益	17	11	▲7	<ul style="list-style-type: none"> • 受取配当金の増加 +5 • 持分法による投資利益の増加 +1 • 受取利息の減少 ▲1 • 為替差益の減少 ▲2 • 子会社株式取得関連費用の増加 ▲7
経常利益	239	300	+61	
特別損益	17	235	+218	<ul style="list-style-type: none"> • 投資有価証券売却益の増加 +142 • 段階取得に係る差益の増加 +80 • 子会社株式売却益の増加 +17 • 固定資産除却損の減少 +16 • 固定資産売却益の減少 ▲17 • 進路設計支援費用の増加 ▲22
税引前利益	256	535	+279	
法人税、非支配株主損益	78	161	+82	
当期純利益	178	374	+197	

設備投資・減価償却費

設備投資

単位：億円

	23年度 1-3Q実績	24年度 1-3Q実績	主な内容	24年度 1-4Q予想
百貨店	65	31	阪急本店改装	53
食品	49	47	SM店舗投資	85
商業施設	15	13	SC店舗改装・ビジネスホテル改修工事	23
その他	121	111		163
IT・DX	103	83	POS、データインフラ整備	101
寧波	—	23	寧波阪急リモデル	51
連結合計	249	197		324

減価償却費

単位：億円

	23年度 1-3Q	23年度 1-4Q	24年度 1-3Q	前年増減
連結合計	147	200	165	+17

発表日	内容
4月16日	投資有価証券の売却に伴う特別利益の計上に関するお知らせ
5月15日	新たな中期経営計画（2024-2026年度）を策定
5月15日	「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を開示
5月15日	当社による株式会社関西フードマーケットの完全子会社化に関する株式交換契約締結のお知らせ
5月15日	自己株式の取得に係る事項の決定に関するお知らせ
5月16日	自己株式の取得結果及び取得終了に関するお知らせ
7月26日	株式会社関西フードマーケットの上場廃止に関するお知らせ
8月6日	2025年3月期 第2四半期業績予想及び通期業績予想の修正並びに特別利益の計上に関するお知らせ
11月7日	自己株式立会外買付取引による自己株式の取得結果に関するお知らせ

本資料に記載された情報については、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いませんので、ご承知おき下さい。

また、本資料の著作権は全て当社に帰属し、著作権法に定める私的利用の範囲を超えて無断で、複写・転載等することを禁じます。